

第 28 回新中間処理施設整備検討会議（開催概要）

1 開催日時 令和 3 年 10 月 22 日（金）14 時 30 分～15 時 10 分

2 開催場所 くりりんプラザ 2 階研修室

3 出席者

（1）構成員

帯広市、音更町、上士幌町、鹿追町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町

（2）事務局

くりりんセンター

1. 開会

（事務局長）

本日は、お忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。

ただいまから、第 28 回新中間処理施設整備検討会議を開催いたします。

事務局長の橋向でございます。本日は、私が議長として進行させていただきます。

2. 議事（事務局）

（事務局長）

それでは、議事に入ります。

議事（1）新中間処理施設整備地質調査結果について、事務局より説明いたします。

（事務局）

（1） 令和 3 年 6 月 1 日～8 月 31 日の期間で行った、新中間処理施設整備地質調査結果についてご説明いたします。 A 3 横の資料 1 をご覧ください。

本調査の目的は、建設地の地質構成及び地下水位状況などを把握し、今後の施設設計および施工に必要な地質資料を得ることを目的としております。

右側の写真をご覧ください。調査箇所は、敷地全体の地層構成を把握するため、旧河道部分を含めた対角線上の 3 箇所 B-1～B-3 を選定しました。

主な調査内容といたしましては、地質を調べるために地表から深さ 15 メートルまでのボーリング調査、地盤支持力を調べるための標準貫入試験、現場発生土の利用等、対象地盤の物理特性を把握するため、採取した土で土質試験を行っております。

次に調査の結果をご説明いたします。下の横に長い図をご覧ください。ボーリング結果から作成した地層断面図になります。建設地の地質構成は、図の下の方になります。洪山層と呼ばれる基層の上に、十勝川の氾濫原堆積物が積み重なった構成であることが確認されました。

地表から深さ 9 メートル程度までは、十勝川の過去の氾濫による堆積物が分布しており、表層部は砂層が敷地全体に広く分布しております。地表から深さ 9 メートルより下の地層では、砂と固結シルトが交互に繰り返し重なっている。密度が高い洪山層が確認されました。

地下水位については、調査地点 3 点の水位差は 20 c m の範囲に収まっておりました。

地盤支持力については、標準貫入試験の結果から、洪山層においては、プラント等の大規模な構造部の支持層条件を満たしていることが確認され、土質については、室内土質試験の結果から、現場発土を盛土や敷地造成で利用が可能であることが確認されております。

新中間処理施設整備地質調査結果についての説明は以上になります。

(事務局長)

それでは、ただいまご説明しました新中間処理施設整備地質調査結果について、ご質問等を伺います。

(幕別町)

地盤の支持力について説明がありましたが、標準貫入試験をやっているのに、N値の記載がない。3箇所ボーリング調査をやっており、柱状図があればN値が細かく確認できるので、できればそれを見せていただきたい。

また、洪山層の支持力はどれくらいで支持力が得られているとの判断ですか。

(事務局)

洪山層については、N値 50 が出ております。N値については、専門的な部分になると判断し、今回の会議資料には記載しておりません。今回は、調査の結果が想定していた地質構成だったという会議資料としております。

(幕別町)

洪山層まで杭を打つという考えで良いのか。

(事務局)

当初の考え方でも、9mくらいで洪山層が出てくることを想定しており、今回の調査で想定通りであることが確認されております。もともと、支持層である洪山層まで届かせる必要があると考えており、杭かどうか施工の方法は今後決まっていくことになります。

(幕別町)

柱状図を確認したいので、後日で結構なので共有いただきたい。

(事務局)

了解しました。柱状図は別途送付します。

(足寄町)

建設地の表層は砂ということで水捌けは良いと思うが、実際に河川氾濫で浸水した場合、旧河道部分は水捌けが悪いか、全体として均一なのか、そのあたりはどのような調査結果となっているのか。

(事務局)

水捌けが良いのかどうかは、地盤の中をどのくらい水が通りやすいのかということになります。今回、B-3地点で現場透水試験を行っており、その結果によると 特別に水がしみ込みやすいという地質ではありませんでした。建設地については十勝川に近いので、資料の下部の図にもありますが、地下水位が地表から2～3mで見られており、掘削するとそのあたりで水が出ることがわかっております。水捌けが良いか悪いかということでは、この地下水位にある程度影響されるのではないかと考えております。

(事務局長)

他になければ、(2) 事業系一般廃棄物搬入事業者 対象アンケート結果について、事務局より説明いたします。

(事務局)

(2) 事業系一般廃棄物搬入事業者を対象としたアンケート調査の結果について、ご説明いたします。資料2をご覧ください。

本アンケート調査は、収集運搬許可業者が現施設へ事業系一般廃棄物を搬入する際に感じていることを把握することによって、施設の改善点として、現在計画の中の新中間処理施設整備の参考にすることを目的として実施したものです。

調査期間は、令和3年7月16日～7月30日までの2週間で実施しており、127事業者へアンケートを送信し、54件 42.5%の回答を得ております。

調査項目と結果については、2ページ以降をご覧ください。主な点のみご説明いたします。まず、問4で、搬入の際の渋滞について伺っております。回答の内訳は、54件の回答のうち、90%以上の事業者が ごみ搬入時に渋滞を経験していることがわかりました。その渋滞時間の待ち時間について、問5で確認しております。30分以上待たされたという事業者が、全体の約8割となっております。渋滞の原因を自由記載で回答を求め、主な回答を問6に記載しております。

3ページ目をご覧ください。渋滞に関する他の、問7、問8計量所において感じる不便なことについても、聞き取っております。2割の事業者が計量所で不便を感じており、「処理料金の支払いが現金のみになっていること」などの回答がありました。

次に、問9でプラットホームで感じる不便なことを聞き取っております。こちらは、約1割の事業者が不便を感じているとの回答でした。その理由を問10に載せております。「プラットホームが狭い」「ユニックが使えない」などの意見がありました。

アンケート調査では、調査項目として項目立てたもの以外の意見を、問12で自由記載という形で最後にいただいております。

意見の中には、場内の看板設置の必要性や、一般車両と委託・許可車両の入場レーンを分けることの検討などの意見がありました。

新中間処理施設では、現施設で利用者が感じている問題点を解決する必要があると考えております。現施設で日常的に発生している渋滞の解消として、計量機を複数にすることを検討するなど、今後の新中間処理施設整備に向けては、今回のアンケート調査の結果を参考にしていくこととしております。

アンケート調査の結果報告は以上になります。

(事務局長)

それでは、ただいまご説明しましたアンケート調査結果について、ご質問等を伺います。

——— 発言なし ———

議事の(3)その他 について、皆様方から何か報告事項や共有事項などございましたら、ご発言をお願いします。

——— 発言なし ———

なければ、お手元にお配りしている 十勝帯広電業協会 と 帯広十勝空調衛生工事業協会から提出された要望書について、事務局より説明いたします。

(事務局)

令和3年10月19日に「十勝帯広電業協会」及び「帯広空調衛生工事業協会」より、一般廃棄物中間処理施設「くりりんセンター」の建て替えに関する要望書が提出されました。

要望の主旨としましては、組合が予定しておりますDBO方式などで契約を行う場合に地元建設業者の受注がなければ、両協会の会員企業も受注ができず安定経営につながらないことから、十勝管内建設業者の受注に配慮を求めるものであります。

組合としましては、まずは現在業務期間中であるPFI等事業導入可能性調査を進め、契約方式を決定していく中で他都市の事例等の調査を行いながら、入札参加資格及び総合評価項目等を検討する中で、施設建設にあたり、有効で効果的な条件設定を選択していく予定であります。

今後におきましても、各種団体から同様の要望が出されることが予想されますので、その都度、情報の共有をしていきます。

説明は以上でございます。

(事務局長)

ただいまの要望書について、ご質問等を伺います。

——— 発言なし ———

なければ、次回の検討会議について、事務局より説明いたします。

(事務局)

次回の第29回 新中間処理施設整備検討会議の開催につきましては、1月末頃に開催する予定となっておりますので、よろしく申し上げます。

3. 閉会

(事務局長)

以上を持ちまして、全ての議事を終了いたしました。本日の会議議事につきましては、組合のHPで公表してまいりたいと思います。

本日はお忙しい中 お集まりいただき ありがとうございます。